

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称	施策I-4-1 特色ある技術・材料を活かした取組みの促進
---------	------------------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	しまねブランド推進課長 日下 純子	電話番号	0852-22-6858
----------	-------------------	------	--------------

事務事業の名称	未来へつなぐ工芸品総合振興事業		
目的	(1) 対象	県内の伝統工芸品製造業	
	(2) 意図	伝統工芸品の販売促進と後継者の育成を図る	
事業概要	島根の工芸品の魅力を維持・発展させ、安価な商品との競争や生活様式の変化に対応しつつ、観光振興にもつなげていけるような商品開発、販路拡大、後継者育成等の取組の支援を行う。		

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	式・定義	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		6,000	6,000	6,000	6,000	6,000
			実績値	6,536	6,785	7,844	6,615		
			達成率		113.10	130.70	110.30		%
指標名	式・定義	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位	
		目標値							
		実績値							
		達成率						%	

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	6,689	15,719
うち一般財源(千円)	6,689	15,059

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	(未選択)
---------------------	-------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

<p>○後継者育成 伝統工芸雇用就業資金については、H26年度においては新規貸し付けがなく継続のみであった。本制度を利用者35名のうち約9割程度が継続就業。</p> <p>○販路開拓 前年度に比べ販売額が下がった。（消費税8%の影響？）（対前年比84.3%） 出展助成により全国規模の商談会及び展示即売会に出展した工房17</p>

6. 成果があったこと（改善されたこと）

<p>○若手のグループによる県内外での積極的な活動を通じ新たな販路開拓への取組がみられた。</p> <p>○県内各地に工房が存在することから観光資源としての活用もみられた。</p>
--

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

<p>①困っている「状況」</p> <p>○県指定事業者のうち4割近くが現在後継者が確保できていない。 ○国内需要の減少、他産地との競争の激化。</p>
<p>②困っている状況が発生している「原因」</p> <p>○3人以下の事業者がほとんどの状況の中、PR等を行うことには限界あり。魅力ある産業としての情報発信が出来ていない。 ○消費者や流通関係者のニーズが商品づくりに活かされていない。</p>
<p>③原因を解消するための「課題」</p> <p>○現在の後継者育成対策は貸付金のみである。幅広い層に興味を持ってもらうための施策が必要。 ○マーケティング力の強化が必要。多様な流通・販売チャンネルの開拓が必要。</p>

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

<p>これまでの島根県ふるさと伝統工芸品連絡協議会への委託による自主販売の支援を継続するとともに、全国規模の商談会等への参加を促し、事業者自らが販路開拓力をつけることを支援する。事業として継続できるように支援。 魅力ある産業として情報発信を行い認知度の向上を図り、後継者育成を目指す。 また島根県内にはユネスコ無形文化遺産に登録された石州半紙など、魅力的な工芸品が多数存在し、工房も各地に存在することから観光振興にもつなげていけるよう支援する。</p>
--

◎課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）

--